

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73205	4	前期	必修	5	225
授業科目名 (英文)	母性・小児看護学実習 (Clinical Practice in Maternity and Pediatric Nursing)				
担当教員名	篠木 絵理／小黒 道子／遠藤 亜貴子／田久保 由美子 田所 由利子／小野 治子／増澤 祐子				
授業の概要及び到達目標					
本科目の受講によって学生は、育成期にある人々、妊産褥婦と新生児及びその家族、こどもとその家族について理解し、それぞれの立場と対象者に適した看護を実践する基礎的能力を養う。 ＜到達目標＞ 1. 育成期にある人々の特徴について説明できる。 2. 育成期にある人々に必要な援助を明らかにすることができる。 3. 育成期にある人々に必要な援助を実践することができる。 4. 育成期にある人々を支援するチームの一員として役割を果たすことができる。 5. 母性・小児看護学実習を通して、自己の課題を明らかにできる。					
準 備 学 習 等					
＜妊産褥婦と新生児およびその家族を対象とした実習における準備学習等＞ ・母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱの授業資料、技術演習で使用したチェックリストを活用できるように整理しておいてください。 ・母性看護援助論Ⅱの授業で使用した演習課題を見直し、不足部分を補充しておいてください。 ・母性・小児看護学実習要項にある「各期における学習目標と内容」の頁を参照し、妊娠・分娩・産褥・新生児の看護に必要な知識・技術をテキスト、参考書、講義・演習資料をもとに復習しておいてください。 ＜こどもとその家族を対象とした実習における準備学習等＞ 実習前 ・小児看護援助論Ⅰ、小児看護援助論Ⅱの授業資料やワークブックは、不足部分を補充し活用できるようにしてください。 ・小児特有の病気について、指示された項目にもとづいて内容を整理してください。 実習初日 ・実習における自己の課題を明確にし、実習に必要な知識・技術を確認し、不足部分は補充し活用できるようにしてください。 実習中 ・母性・小児看護学看護実習要項を参照し、到達目標・行動目標をふまえて日々の課題に取り組んでください。 実習最終日 ・実習記録や学習成果物は全てそろえ、最終試験（口頭試問）の準備をしてください。					

成績評価の方法	妊産褥婦と新生児およびその家族を対象とした実習：50% こどもとその家族を対象とした実習：50% 各対象の実習における学修評価は、実習内容、実習記録、自己評価表等を総合して評価します。
テキスト	・有森直子編著，母性看護学Ⅰ概論，医歯薬出版，2015 ・有森直子編，母性看護学Ⅱ周産期各論，医歯薬出版，2015 ・太田 操編，ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第 2 版，医歯薬出版，2009 ・奈良間美保他著，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論，医学書院，2015 ・奈良間美保他著，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論，医学書院，2015
参考図書	・「母性看護学(1)：母性看護実践の基本 ナーシング・グラフィカ 第4版」(横尾京子 他著、メディカ出版、2016) ・「母性看護学(2)：母性看護技術 ナーシング・グラフィカ 第3版」(横尾京子他著、メディカ出版、2016) ・「講義録 産科婦人科学」(石原理 他編、メジカルビュー社、2010) ・「ナースの産科学」(杉本充弘編著、中外医学社、2013) ・「新生児学入門 第4版」(仁志田博司、医学書院、2012) ・「新生児ベーシックケア 家族中心のケア理念をもとに」(横尾京子、医学書院、2011) ・「根拠と事故防止からみた母性看護技術 第2版」(石村由利子編、医学書院、2016) ・「病気がみえる vol.10 産科第3版」(医療情報科学研究所編、メディックメディア、2013) ・こどもの病気の地図帳(鴨下重彦他著、講談社) ・小児看護実習ガイド(筒井真優美編、照林社) ・小児臨床検査ガイド(五十嵐隆他編、文光堂) ・今日の治療薬(浦部昌夫他編、南江堂) この他、適宜紹介します
備考	・母性看護援助論Ⅰ、Ⅱ及び小児看護援助論Ⅰ、Ⅱの単位を取得していることが、本科目を履修する前提条件となる。 ・「母性・小児看護学実習要項」及び「看護学実習要項」をよく読み、理解して準備学習に取り組んでください。 ・各教員のオフィスアワーについては、履修案内の「オフィスアワー」の項を参照してください。

授 業 計 画

<妊産褥婦と新生児およびその家族を対象とした実習>

Ⅰ．実習期間

病棟・外来実習等 10 日、統合実習 2.5 日

Ⅱ．実習場所

JCHO 船橋中央病院、JCHO 東京山手メディカルセンター、日本医科大学千葉北総病院、船橋市立医療センターなど

Ⅲ．実習内容

1. 母子受け持ち実習（分娩期または産褥早期から 1 組の母子を受け持つ）
2. 妊娠期の看護実習（産科外来、助産師外来、母親学級見学等）
3. 育児期の看護実習（育児用品調査、子育て支援施設見学、レポート作成等）
4. カンファレンス
5. 統合（受け持ち母子の関連図、指導案作成、実習評価等）

<こどもとその家族を対象とした実習>

Ⅰ．実習期間

- 1) 健康生活支援コース 保育園、小児科外来
- 2) 健康障害支援コース 小児系病棟

各コース共通：オリエンテーション、学内実習、まとめ

Ⅱ．実習場所

浦安こども園、健伸保育園、JCHO 東京新宿メディカルセンター、JCHO 東京山手メディカルセンター、日本医科大学千葉北総病院、船橋市立医療センターなど

Ⅲ．実習内容

1. オリエンテーション（実習における自己の課題を明確にし、実習に必要な知識を確認し補充する。こどもの看護に必要な看護技術を学ぶ。）
2. コース別実習
 - 1) 健康生活支援コース（保育園等の地域生活の場でこどもと関わることにより、こどもの発達と生活を理解する。小児科外来ではこどもの発達と健康レベルに応じてこどもと関わり、初期アセスメントを行い、必要な看護を考える。）
 - 2) 健康障害支援コース（健康障害のあるこどもを受け持ち、こどもと家族をアセスメントし、援助を実践する。）
3. 学内実習（実習での取り組み状況、実習目標の達成度を評価する）
4. まとめ（実習での学びを整理し、自己の課題の達成度を評価する。
評価に基づく新たな自己の課題を具体的にし、学習に取り組む）